

佳作

おーちゃん日記 (おじいちゃんありがとう)

栃木県 宇都宮市立御幸小学校二年 五月女 知杏

おーちゃんだいすき！とても元気でやさしいおじいちゃんでした。おねえちゃんには、いつも、「ちはなはべんきようができるからだいじょうぶ。」と、はげましてくれました。わたしにも、「のりあはいつもまわりを見ていっしょうけんめいがんばっているから、そのままだいじょうぶ。」と、はげましてくれました。おかげでじしんがつかしました。

おじいちゃんはいえにあそびにいくと、おにくをやいてくれたり、わたしのすきなたべものをいつもつくってくれました。「おいしいよ！」とつたえると、「ありがとう、またつくるね」とにこっとわらってくれました。休みの日には、ゲームをいっしょにしたり、外にあそびにつれていってくれました。おじいちゃんの車の中には、わたしたちのすきなDVDがいっぱいはいっているので、車にのることも

だいすきでした。

ある日、せきがとまらなくなっていました。五月十五日にのうこうそくでたおれてしまいました。一しゅうかんくらいで元気になってきたのですが、とつぜん足がむらさき色になってしまいました。すぐにびょういんでしゅじゅつをしました。つぎの日学校からかえってくるとおかあさんによばれ、いそいでびょういんにいきました。とうとうおじいちゃんが生んでしまいました。とてもかなしくてかなしくて、おじいちゃんがしんぱいでたまらず、おじいちゃんとはなすことができないことがふあんでしかたがありませんでした。

そんなとき、学校のとしょじつの一さつの本を思い出しました。その本のだい名は、『おじいちゃんのごらくごらく』という本です。その本は、わたしのおじいちゃんと同じびょうきで、おじいちゃんが生んでしまったというお話です。そのおじいちゃんはおふろに入るといつも「ごらくごらく」といってしあわせそうにわらいます。おじいちゃんがいなくても、おふろに入るとおじいちゃんとなりで、「ごらくごらく」といっているのを、かんじることができるとありました。その本のおかげで、今はとなりにいなくても、きつとちかくで

「だいじょうぶ！」といってくれているとかんじることができました。みえなくても、会えなくても、おじいちゃんをかんじることができるとは、すぐくあんしんすることなんだとわかりました。

おじいちゃん、まいにち何をしていますか？わたしといっしょにごはんをたべたり、べんきようしているとき、そばにいてくれるよね。なぜかはわかりませんが、そんなかんじがします。おじいちゃんが、わたしにのこしてくれた、「のりあはだいじょうぶ」は、いつもわたしの心にいます。会えないかもしれないけれど、おじいちゃんとのたからものがあります。だから、わたしはだいじょうぶです。おじいちゃんもぜったい元気にしていると思うので、わたしも元気にがんばります。おーちゃんだいすき♡じまのおじいちゃんです。ありがとう。